

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	森田 学
------	------

主な担当科目	オペラの歴史と作品,基礎イタリア語,初級イタリア語
シラバス	ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。) ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック

2023年の教育目標・授業に臨む姿勢	本年度の教育目標は、学生の主体的な学びをいかに導くかである。学生の中には本学が第一志望だった学生もいれば、そうでない学生もいる。また音楽は好きだが勉強に強い抵抗を感じる学生もいる。高校までの習う授業から大学での学びの深さと豊かさを学生が理解し、行動できるように導きたい。授業では各科目で設定した到達目標にどのように向かうか、今どこにいるのかが把握できるように指導を目指す。
2023年の教育に関する自己評価	シラバスに示した内容を踏まえ各回の授業で学ぶことが目標到達までの全行程のどこに当たるのかを口頭でも説明し、授業内で実施する小テストではどこまで理解できていて、どこから理解できていないかをフォードバックした。通年科目では前期末と年度末の試験では、素点のみで学生の理解度を判断するのではなく、不正解であってもどのように解答したかのプロセスも見ることもできる出題形式にすることで質的な評価も行った。この評価基準を示すことで学生の試験に向けた学修にも変化が見られる。来年度も学修効果により確実に繋がる評価について実践して行く。

2023年のFD活動に関する自己評価	本学でのFD研修の中でも、ワークショップ形式で行われたデートDVの研修が学生の授業外での問題を理解することができ、有益だった。また、学外でのFDにも積極的に参加したことで、学生の相談を受ける際に配慮すべき点や、ICT化が進む大学教育の現場でのメールでのやり取りやデータの扱い方についても問題に対処する(できない場合にはどこに連絡・報告するか)ための理解が深まり、事態に備えることができた。
授業改善のために取り入れた研修内容	成績評価において学科の場合、学期末の筆記試験の素点をベースに評価しようとする意識が一般的に働く。この点を意識しつつ、60点を取った学生は「C」と単純に評価するのではなく、シラバスで示した到達目標に達していれば「B」とする。同時に授業中に学んだ内容の確認テストで90点以上を取った学生を「S」と評価するのではなく、到達目標を大きく超えた学修をおさめた学生が「S」評価に相当するような基準の導入。また、基準の妥当性を共有するためループリットを作成すること。

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2924 教員名:森田 学

1)アンケート結果に対する所見

学部と短期大学部で担当している科目では、なぜその科目を履修するのか、何を学び取りたいのかを意識している学生とそうでない学生では、授業に対する取り組みや学修態度、満足度が連関していることが読み取れる。高等学校までの「習う」から大学で「学ぶ」姿勢が準備できているかを見極める必要があるだろう。

今年度から始まった大学院・音楽と文化コースの専門科目「音楽芸術運営特別演習①」では授業に対する興味や満足が 100%の回答を得られていることから、主科専門科目として教員の求める内容と学生が求める内容が一致していることがうかがえる。また、大学院「舞台発声研究(伊語)II」では自由記述のコメントに、内容が難しいと感じたが実技につながることに興味深く学ぶことができたと記されていたことに手応えを感じた。

2)要望への対応・改善方策

西洋音楽史を履修した後に学ぶ「オペラの歴史と作品」では、前提となる基礎知識をどれだけもっているかによって学生の感じ方がさまざまであることから、(試験勉強をするための)要点をまとめた資料を希望する声もあるが、要点を自分自身のことばでまとめることこそが本授業の目的であるため、この点を丁寧に説明する必要がある。また、学生が「膨大」と感じる情報については、音楽大学においてオペラの歴史と作品を学んだと最低限いえる 50 ほどの作品を「(暗記すべき)膨大な」データではなく、「豊かな作品」として捉えられるよう授業内容を履修者の理解に合わせて修正していきたい。ただし、授業に出席しているが眠っている、スマホで動画を視聴している等についても「自己責任」と切り捨てるのではなく、方策を講じたい。

3)今後の課題

おおむね科目ごとにめざしている学修内容については適切に設定されていると思われる。とはいえ、学部と短期大学部で担当している科目のなかに 24 名の受講者のうち回答者が3名というものがあつたため授業アンケートのデータ自体が現状を反映しきれていないことも十分考えられる。よって、大学での学びとは何か、当該授業ではどのような学修をなすべきなのか、シラバスに記されている内容を学生が的確に理解できているかどうかにも気を配りつつ、次年度も教育にあたりたい。

以 上